

## ジンポー語民話資料「蟬の鳴き声の由来」\*

倉部慶太

東京外国語大学 / 南洋理工大学

キーワード：ジンポー語、カチン語、カチン人、ビルマ、ミャンマー、民話

### 1 はじめに

ジンポー語は、北東インドのブラマプトラ溪谷上流から北部ビルマ(ミャンマー)を通り中国雲南省西端部に跨がる地域に分布する、シナ・チベット語族チベット・ビルマ語派に属する言語である。母語話者人口は、ビルマに 630,000 人、中国に 37,000 人、インドに 5,000 から 6,000 人と推定される。ジンポー語はビルマ有数の民族のひとつであるカチン人の言語のひとつである。この言語は、言語的に多様なカチン人の間で共通語として通用している。

本稿の目的は、筆者が 2016 年 12 月に北部ビルマに位置するカチン州ミッチーナ市において行ったフィールドワークにより収集した民話資料のうち、「母よ、子よ」と題する資料の本文を語釈、翻訳、文法注釈とともに提示することにある。本民話は、カチン州の二大河川マリ川とンマイ川流域に生息する蟬の鳴き声に関する由来譚である。ヒマラヤ氷河に起源を持つマリ川とンマイ川は、カチン州北部においてそれぞれ並行的に流れるが、カチン州中部において合流し、ミャンマー最大の河川であるイラワジ川となる。その合流地点はカチン文化において特に重要な位置づけが与えられている。

本民話の要約は次の通りである。昔、母と子が食料を探してイラワジ川を北上したとき、マリ川とンマイ川の合流地点に到着した。効率よく食べ物を探すために、子はマリ川沿いを、母はンマイ川沿いを遡り、最後に上流の 2 つの川が合流する地点で再会しようと約束した。しかし、母と子は知らなかったのであるが、ンマイ川とマリ川は上流で二度と合流することはなかった。二人はお互いを探して呼び合いながら川を遡ったが、ついに再会することなく、空腹で死んでしまった。その場所で二人は蟬となり、子の蟬は「ヌーイー」(母よ)と鳴き、母の蟬は「シャーイー」(子よ)と鳴くようになった。そのために、今日においても、これらの川の流域に生息する蟬は、それぞれ鳴き声が異なるのである。

---

\* 本稿を執筆するにあたり、オスロ大学 / 国立民族学博物館の鈴木博之氏から詳細なコメントをいただいた。ここに記して感謝申し上げる。筆者による現地調査は、平成 24-25 年度日本学術振興会科学研究費補助金(特別研究員奨励費)「ジンポー語の記述言語学的研究」(課題番号：12J02938)、平成 26-28 年度日本学術振興会科学研究費補助金(特別研究員奨励費)「北部ビルマにおけるジンポー語危機方言の調査とドキュメンテーション」(課題番号：14J02254)、平成 28-30 年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)「方向接辞からみたチベット・ビルマ語系言語の諸相」(研究代表者：荒川慎太郎、課題番号 16H03414)の助成を受けている。



図1 マリ川とンマイ川の合流地点 (筆者撮影 2011 年 2 月 27 日)

## 2 データ

筆者は、2009 年から 2017 年の期間、北部ビルマにおいてジンポー語を対象とした断続的なフィールドワークを行った。調査の一環として筆者はジンポー語による大量の語りを録音し、特に 2016 年からは複数の現地協力者と共同で民話の収集を精力的に行った。その結果、2009 年から 2017 年 3 月 11 日までの間に、196 名の語り手の協力のもと、計 1,908 本の語りの音声資料 (計 157 時間弱) が得られた。本稿で提示する民話はその成果のひとつである。本民話は 2016 年 12 月 23 日にミッチーナー市のドゥーカトン地区において行った対面調査により得られたものであり、調査協力者は 1942 年生の男性話者である。調査では、まず、リニア PCM レコーダー (ZOOM H4n) にショットガンコンデンサーマイク (RØDE NTG2) を接続し、音声 (44.1kHz/16bit) を取り込んだ。対面調査後、筆者が正書法を用いて音声を文字に書き起こし、後日、別のコンサルタントの協力のもと、データの確認作業を進めた。

## 3 本文

本節では語釈、翻訳、文法注釈を付した民話本文を提示する。表記は Kurabe (2016, 2017) などに示した筆者による音素表記を用いる<sup>1</sup>。ジンポー語文法の詳細に関しては、上記文献を参照されたい。本資料は言語研究の利用に供するよう、翻訳部分はできる限り原語に即して翻訳してある。そのため、日本語としてやや不自然な部分があるが、これらは誤植ではない。また、

<sup>1</sup> 子音音素 : /p, t, ts, c, k, ʔ, b, d, dz, j, g, ph, th, kh, s, ɕ, (h), m, n, ŋ, ʔm, ʔn, ʔŋ, r, l, ʔr, ʔl, w, y, ʔw, ʔy/. 母音音素 : /i, e, a, o, u, ə/. 声調 : /á, a, à, â/.

本稿では録音に忠実な記述をしているため、冗長な反復や本筋から外れる部分が含まれる。

(1) **yá? nday gò “?nú ?i, ɛâ ?i” màwmù.**

now this TOP mother SFP child SFP tale

今これは「母よ、子よ」の物語<sup>2</sup>。

(2) **yá? dáy-ní ?ánthe grày tsun-gərù ?ay məli?-nmay-dzùp kó? òná phaj ?ay**

now this-day 1pl very say-be.noisy NMLZ Mali-Nmai-gather LOC ABL begin NMLZ  
**màwmù ?i, dáy rê.**

tale SFP that COP

今、今日、私たちがとても語る、マリ川とンマイ川の合流地点から始まった物語ですね、  
それです<sup>3</sup>。

(3) **dáy màwmù gò nday khu.**

that tale TOP this like

その物語はこのようなです。

(4) **mòy ɛoŋ dè? gənù thè? gəɛà nà ?ay.**

long.ago before ALL mother COM child be DECL

昔、母と子がいました<sup>4</sup>。

(5) **gənù thè? gəɛà nà yàŋ gò ɛán ləkhòŋ gò nday khà?-kaw gərèt òná lè ?i.**

mother COM child be when TOP 3du two TOP this river-side follow SEQ SFP SFP

母と子がいて、彼ら二人はこの(イラワジ)川の岸に沿ってですね<sup>5</sup>。

(6) **khà?-kaw gərèt òná ɛè? sìmáy ni tam ?ay lè.**

river-side follow SEQ only food PL look.for DECL SFP

川岸に沿って、食料を探しましたね<sup>6</sup>。

<sup>2</sup> 「母よ、子よ」のように同格要素を並列する表現は、ジンポー語において広く観察される。並列要素の順序に関して、並列要素の音節数が同一である場合、高母音を含む並列要素が先行するという規則がある(倉部 2011 を参照)。

<sup>3</sup> 動詞 *gərù* は単独で「うるさい」の意を表すが、動詞 *tsun* 「言う」と組み合わせると、「うるさいほど」「人口に膾炙する」という意味を表す。

<sup>4</sup> 向格 *dè?* は基本的に方向を示す格であるが、特に場所名詞や時間名詞とともに用いられると位置を標示する用途にも用いられる(倉部 2012 を参照)。接頭辞 *gə-* は親族名詞に付加され、一般名詞を形成する。通時的に 3 人単数の人称代名詞に由来すると推定される(Kurabe 2017:999-1000 を参照)。

<sup>5</sup> *ɛán* 「彼ら二人」は 3 人称双数形である。ジンポー語の人称体系は双数に基づく対立を持つ。双数は全て末子音 *n* を持つが、これは廃れた数詞である *ni* 「2」の残存である。現代語におけるより一般的な数詞「2」は *ləkhòŋ* である。

<sup>6</sup> 副助詞 *ɛè?* はそれ自体で「だけ、その時だけ、して初めて」の意を表すが、しばしば接続助詞 *òná* 「～して」の後で語彙の意味を持たないつなぎの要素として用いられる。この用法は特に民話のジャンルで頻繁に観察される。

- (7) ?è, ?ujó-sì            nì ləphó        nì pha nì ?i.

INTJ banana.bud-fruit PL banana.leaf PL what PL SFP

ええ、バナナの蕾やバナナの葉などですね<sup>7</sup>。

- (8) ɛá ?ay    bò? lè.

eat NMLZ sort SFP

食べる物ですよ<sup>8</sup>。

- (9) ləgá-?utuŋ    kó? ìná khót, ɛán tam    lùŋ    wà    rê    ɛəloy gò nday  
banana-section LOC ABL finish 3du look.for ascend VEN COP when TOP this  
məli?-nmay-dzùp kó? dù    wà    ?ay.

Mali-Nmai-gather LOC arrive VEN DECL

バナナの茎からありとあらゆるものを彼ら二人は探して(イラワジ川を)上ったとき、このマリ川とンマイ川の合流地点に到着しました<sup>9</sup>。

- (10) ?è, nday məli?-nmay-dzùp kó? dù    ?ay    ɛəloy gò gənù gò gərə khu tsun  
INTJ this Mali-Nmai-gather LOC arrive NMLZ when TOP mother TOP how like say  
?ay ?i ɲa jaŋ “mà ?è, ?án ?nù    gò ɛərə mi kó? ɛà rəw    tam    yàŋ  
DECL Q say when child SFP 1du mother TOP place one LOC only together look.for when  
ləphó    thè? sìmoŋ-simáy ló?-ló?    ń-lù    na rê.”

banana.leaf COM COUP-food many-RED NEG-get IRR COP

ええ、このマリ川とンマイ川の合流地点に着いたとき、母は何と言ったかという、「子よ、私たち母(と子)はひとつの場所だけで一緒に探すとバナナの葉と食料をたくさん手に入れることができないでしょう。」

- (11) “day məjò    naŋ gò ləpay-məgá ná    khà?-je    khu lùŋ    ?ù?.”

that because 2sg TOP left-side        GEN river-road like ascend IMP

「だから、あなたは左側の川を上りなさい。」<sup>10</sup>

- (12) “?nù    gò ləkhra-məgá ná    khà?-je    khu lùŋ    wà na” ɲú    tsun ?ay    ɛəloy  
mother TOP right-side        GEN river-road like ascend VEN IRR QUOT say NMLZ when  
“thó    tsunbo kó? khúm gà?” ɲú    tsun ?ay.

up.there fork LOC meet HORT QUOT say DECL

<sup>7</sup> ?ujó-sìと呼ばれるバナナの蕾は、カチンの伝統料理によく用いられる。ləphóと呼ばれるバナナの葉は、伝統的なカチン料理を包む用途に使われ、同時に料理をのせる皿としての機能も果たす。複数名詞の列挙の最後に pha ni を置くと「～等」の意味を帯びる。

<sup>8</sup> 名詞 bò? はしばしば名詞節とコピュラ動詞を伴い、「～する種類のものだ」という意味を表す人魚構文(角田 2011)を形成する。

<sup>9</sup> 助動詞 wà は本動詞 wà 「帰る」に由来し、直示中心への移動、新しい出来事の生起を表す。

<sup>10</sup> 様態格 khu は名詞 khu 「穴」に由来し、「～のように」、「～に沿って」、「～語で」など、様々な意味役割をマークする。

「母は右側の川を上ります」と言ったとき「あの上流の分岐点で会いましょう」と言いました<sup>11</sup>。

(13) **tsunbo ɲú ʔay nday khu ʔyô.**

fork say NMLZ this like SFP

(川の分岐点の図を描きながら) 分岐点というのはこのようなものですよ。

(14) **naŋ tsunbo ɲú ʔay ce ʔay kún.**

2sg fork say NMLZ know DECL Q

あなたは tsunbo 「分岐点」という語を知っていますか。

(15) **khàʔ ləŋây mi ɲà s-ay ń-ráy.**

river one one be CSM-NMLZ NEG-COP

(ここに) 川がひとつあるではないですか。

(16) **khàʔ ləŋây mi nday khu lùw wà jaŋ ɕèʔ nday məgá má khàʔ gərán màt**

river one one this like flow VEN when only this side also river divide COMPL  
**wà s-ay.**

VEN CSM-DECL

川がひとつこのように流れてきて、この方向にも川が分かれてしまっています。

(17) **nday má gərán màt wà ʔay.**

this also divide COMPL VEN DECL

こちらでも分かれてしまっています。

(18) **nday kóʔ khrúm ʔay.**

this LOC meet DECL

(ひとつの川が一度分岐して再度上流で合流する楕円形の図を書きながら) ここで (2つの川がまた) 合流します。

(19) **ré yàŋ gò nday khàʔ, nday gərán màt ʔay nday khàʔ ləŋây mi kóʔ ńná**

COP when TOP this river this divide COMPL NMLZ this river one one LOC ABL  
**ʔnɪŋ ráy ńná nday kóʔ dzùp ʔay ɲú ɕədùʔ ʔay.**

thus COP SEQ this LOC gather DECL QUOT think DECL

それで、この川、この別れてしまったこのひとつの川から、このようになって、(図を指さしながら) ここ (上流) で合流すると (母子は) 思いました<sup>12</sup>。

<sup>11</sup> 引用標識 ɲú は、本動詞 ɲú 「～と言う」に由来する。動詞「言う」が引用標識へと文法化する例は、通言語的に珍しくない (倉部 2010 を参照)。

<sup>12</sup> 奪格と継起の接続助詞は同形であり、通時的に同一形態素に起源を持つと考えられる。この文に例示されるように、奪格は名詞に直接後続することはほとんどなく、場所格など別の格の後に後続することが多い。なお、属格 ná も奪格と継起の接続助詞と形態的類似性を示すが、これらは全て同一の通時的起源を持つと推測される。本来の属格は ʔàʔ であったが、現代語では ná が勢力範囲を拡

(20) **ń-rê.**

NEG-COP

違います。(イラワジ川は一度のみ分岐し、マリ川とンマイ川となりますが、その2つの川は上流では二度と合流しません。)

(21) **nday wa gò ?nâŋ dè? nday wa gò ?nâŋ dè? rê ɕánthe gò ń-ɕədù? ?ay.**

this man TOP here ALL this man TOP here ALL COP 3pl TOP NEG-think DECL

こいつはこちらへ、こいつは(別の方向の)こちらへ(流れている)と彼らは思いませんでした<sup>13</sup>。

(22) **ráy jaŋ gò gənù gò “?ê, ɕá ?è, ?án ləkhôn rəw ɕà ráy jaŋ gò ?i**

COP when TOP mother TOP INTJ child SFP 1du two together ADV COP when TOP SFP  
**ló?-ló? ń-lú na rê.”**

be.many-RED NEG-get IRR COP

そうしたら、母は「ねえ、子よ、私たち二人は一緒にいればですね、(食料を)たくさん得られないでしょう。」

(23) **“day məjò naŋ gò ləpay-məgá ná khà?-je, khà? ?nîŋ rê kó? ñná ?i,**

that because 2sg TOP left-side GEN river-road river thus COP LOC ABL SFP  
**ləpay-məgá dè? naŋ lùŋ s-ù?.”**

left-side ALL 2sg ascend DIST-IMP

「なので、あなたは左側の川(マリ川)、川がこのようになって(分岐して)いるところから、左側へあなたは(川を)上りなさい。」<sup>14</sup>

(24) **“?nú gò ləkhra-məgá khu lùŋ na.”**

mother TOP right-side like ascend IRR

「母は右側(のンマイ川)から上ります。」

(25) **“wó tsunbo, nday tsunbo kó? khúm gà?.”**

over.there fork this fork LOC meet HORT

「あちらの(上流の)分岐点、この分岐点で(また)会いましょう。」(ふたつの川が再び会う地点でまた会いましょう)<sup>15</sup>

大している(倉部 2012 を参照)。

<sup>13</sup> 名詞 wa は本来ヒトを指すが、この文に例示される通り、同形式を用いてモノを指すこともできる。日本語の「やつ、こいつ」などと同様である。同様の例はビルマ語やチャック語(藤原敬介氏, p.c., 2017)にも観察される。また、この文の参加者は二名であるため、厳密には双数形を用いるべきであるが、ここでは複数形が用いられている。このように、双数形を用いるべき場面で複数形を緩く用いる例が実際の発話では散見される。

<sup>14</sup> ジンポー語の命令は直示中心へ向かう方向への命令(proximal command)と直示中心から離れる方向への命令(distal command)の二項対立を持つ(Kurabe 2016, 2017 を参照)。

<sup>15</sup> ジンポー語の遠称指示詞は、高低に基づく三項対立を持つ。指示詞 wó は話者と相対的に同じ高さにある指示物を指し、thó は話者よりも高い位置、lé は話者よりも低い位置にある指示物を指す。

(26) nday tsumbo nú ?ay.

this fork say DECL

(筆者に対して) これは「分岐点」と言います。

(27) ?ánthe jìngphò? ni gò nday tsumbo nú ?ay phé? dim ce ?ay lè.

1pl Jinghpaw PL TOP this fork say NMLZ ACC obstruct know DECL SFP

私たちジンポー人はこの(川の)分岐点というのをよく遮りますよ<sup>16</sup>。

(28) nday mǎgá ná khà? pík òná nday mǎgá òná cǎlé?, nday kó? ná khuy cá

this side GEN river close SEQ this side ABL expel this LOC fish hunt eat  
?ay rê.

NMLZ COP

こちら側の川を遮って、こちら側から(魚を)追い出し、ここで魚を釣って食べるのです。

(29) day dzòn rê nú cǎdù? ?ay, ɕi gò.

that like COP QUOT think DECL 3sg TOP

(マリ川とンマイ川も上流で) そのようになって(合流して) いると思いました、彼女は。

(30) ráy òná cǎ? gǎcǎ mùng lǎpay-mǎgá dè?, mǎlì?-khà? dè? lùŋ wà ?ay.

COP SEQ only child also left-side ALL Mali-river ALL ascend VEN DECL

そうして、子供も左側へ、マリ川へ上りました。

(31) nday mǎgá gò gǎnù lùŋ màt wà ?ay.

this side TOP mother ascend COMPL VEN DECL

(図を指して) この(ンマイ川の)側は母が上ってしまいました。

(32) ráy jaŋ gò cǎn gò sa khay sa.

COP when TOP 3du TOP go only go

すると、彼ら二人は(それぞれの川を上流の方向に) 行きに行きました。

(33) jan dù wà tí? mùŋ “kôy, khúm na kún, kôy, khúm na kún” nú yàŋ gò gǎcǎ

sun arrive VEN but also INTJ meet IRR Q INTJ meet IRR Q say when TOP child

gò day khu òná lùŋ wà òná wó-rà kó? gò “?nú ?è, ?nú ?è”

TOP that like ABL ascend VEN SEQ over.there-place LOC TOP mother SFP mother SFP

nú gǎdè cǎgá tí? mùŋ í-thán.

QUOT how.much call but also NEG-answer

太陽が沈んでも「あら、会えるだろうか、あら、会えるだろうか」と言っ、子はそのように(川を)上って、あちらで「母よ、母よ」と何度呼んでも(母は)答えません<sup>17</sup>。

<sup>16</sup> 動詞 ce 「知る」は他の動詞とともに用いられると習慣や能力可能の意味を表す(倉部 2010 を参照)。

<sup>17</sup> 疑問語は疑問のほかにも不定を表す際にも用いられる。不定を表す際には日本語と同様、副助詞 má 「〜も」を伴うことが多いが、副助詞は必須ではない(Kurabe 2016 を参照)。

- (34) **wó-rà mǎgá ná mǔ̀ng “câ, câ” ɲú cǎgá tí? mǔ̀ng í-thán.**  
 over.there-place side GEN also child child QUOT call but also NEG-answer  
 あちら側の(人)も「子、子」と呼んでも(子は)答えません。
- (35) **ráy jaŋ gò lùŋ wà mǎgaŋ lùŋ wà mǎgaŋ gò tsan cè? tsan wà s-ay lè ʔi.**  
 COP when TOP ascend VEN ahead ascend VEN ahead TOP be.far only be.far VEN  
 CSM-DECL SFP SFP  
 すると、(それぞれが)先に上って先に上ってということで(マリ川とンマイ川は並行して走っており、交わることはないので、お互い)もう大変遠くなってしまったのですね<sup>18</sup>。
- (36) **day mǎjò gò cǎn lǎkhòŋ gò ɲíthóy ná? wà jaŋ gò cǎn lǎkhòŋ gò kó?si ɲná ʔi, day kó? si màt s-ay rê.**  
 that because TOP 3du two TOP day spend VEN when TOP 3du two TOP be.hungry  
 SEQ SFP that LOC die COMPL CSM-NMLZ COP  
 だから、彼ら二人は日が経つと彼ら二人は空腹になってですね、そこで死んでしまったのです。
- (37) **nday gǎnù má si ʔay.**  
 this mother also die DECL  
 この母も死にました。
- (38) **gǎcà má si ʔay.**  
 mother also die DECL  
 子も死にました。
- (39) **ráy jaŋ gò cǎn gò khra tay ʔay rê.**  
 COP when TOP 2du TOP cicada become NMLZ COP  
 そして彼ら二人は蟬になったのです。
- (40) **khra ɲú ʔay ce ʔay ʔi.**  
 cicada say NMLZ know DECL Q  
 (筆者に対して) khra 「蟬」という語を知っていますか。  
 (筆者、とっさに khra 「蟬」という語の意味を思い出せず「知らない」と言う。)

<sup>18</sup> 助動詞 *mǎgaŋ* は本動詞の後に置かれ、先行する動作を表す。この助動詞を伴う動詞は、自動詞であれ他動詞であれ、先行される人物を対格で取るようになり、必須項がひとつ増える。したがって、この助動詞を伴う構文は適応構文であると見なすことができる (Kurabe 2016 を参照)。



(41) **cicada ŋa ʔay rê.**

cicada say NMLZ COP

(英語で) cicada と言うのです。

(42) **pyen òná ʔnâŋ kóʔ ŋoy ʔay rê.**

fly SEQ here LOC make.noise NMLZ COP

飛んでここで鳴くのです。

(43) **khra rê.**

cicada COP

蟬です。

(44) **khra-gə̀nù rê.**

cicada-worm COP

虫の蟬です。

(45) **ce ʔay ò-ráy.**

know NMLZ NEG-COP

知っているでしょ？

(46) **khra.**

cicada

蟬。

(筆者、思い出して「ああ、蟬ですか」と言う。)

(47) **ʔè, ʔè, day, day.**

INTJ INTJ that that

はい、はい、それ、それ。

(48) **ʔè, day.**

INTJ that

はい、それ。

(49) **ʔè, day khra-gə̀nù tay màt wà ʔay.**

INTJ that cicada-worm become COMPL VEN DECL

はい、その虫の蟬になってしまいました。

(50) **ré yàŋ gò khra-gə̀nù tay màt wà òná gò ləpay-məgá ná gə̀cà gò**

COP when TOP cicada-worm become COMPL VEN SEQ TOP left-side GEN child TOP

“ʔnù ʔi” ŋú ʔay khra tay màt wà ʔay.

mother SFP say NMLZ cicada become COMPL VEN DECL

それで、虫の蟬になってしまっ、左側の(マリ川を上った)子は「ヌーイー」(「母よ」)

と鳴く蟬になってしまいました。

- (51) **khra-məgá ná gənù gò “câ ?i” ɲú ?ay gənù tay màt wà ?ay.**

right-side GEN mother TOP child SFP say NMLZ worm become COMPL VEN DECL

右側の(ンマイ川を上った)母は「シャーイー」(「子よ」)と鳴く虫(蟬)になってしまいました。

- (52) **ráy yàŋ gò yá? ?ánthe bùm-gá dè? gò, grày tsò ?ay bùm dè? nday khra day cəgá ?ay.**

this cicada that call DECL

それで、今、私たちの山地では、とても高い山で、この蟬はそれ呼びます。(お互いを呼んで鳴きます。)

- (53) **grày gəròt ?ay.**

very pull DECL

(蟬たちは)とても(声を)引っ張ります。(声を長く引っ張って鳴きます。)

- (54) **“?nūuuu ?iiii” ɲa ñná cəgá ?ay.**

mother SFP say SEQ call DECL

「ヌーイー」(「母よー」)と言って(蟬になった子は母を)呼びます。

- (55) **nday kó?, nday məgá dè? ?è, məlì?-khà?-məgá kó? “?nū ?i” cə cəgá ?ay.**

this LOC this side ALL SFP Mali-river-side LOC mother SFP only call DECL

ここで、この側で、マリ川の側では「母よ」とだけ呼びます。(蟬が鳴きます。)

- (56) **ñmay-khà?-məgá gò “câaaa ?iiii” ɲa cəgá ?ay.**

Nmai-river-side TOP child SFP QUOT call DECL

ンマイ川の側では「シャーイー」(「子よー」)と呼びます。(蟬が鳴きます。)

- (57) **khra lè ?i.**

cicada SFP SFP

蟬ですね。

- (58) **day məgá kó? day cə cəgá ?ay.**

that side LOC that only call DECL

その(ンマイ川の)側ではそれだけを呼びます。(蟬が鳴きます。)

- (59) **ráy tím cǎn lǎkhôn gò gəlóy má í-khrúm màt s-ay lè ?í.**  
 COP but 3du two TOP when also NEG-meet COMPL CSM-DECL SFP SFP  
 しかし、彼ら二人はもう決して会わなくなってしまったのですね<sup>19</sup>。
- (60) **khra tay òná yá? dù khra “?nú ?í, cǎ ?í” nǔ ?ay nday kó? òná phaj**  
 cicada become SEQ now arrive till mother SFP child SFP say NMLZ this LOC ABL begin  
**òná byin wà ?ay nǎ ?ay, nday màwmù.**  
 SEQ happen VEN DECL say DECL this tale  
 (母子は) 蟬になって今日まで「母よ、子よ」と鳴くのは、ここから始まって起こったと言います、この物語は。
- (61) **?ánthe jǐnphò? ní ?à? màwmù nday.**  
 1pl Jinghpaw PL GEN tale this  
 私たちジンポー人の物語これは。
- (62) **day mǎjò gò nday mǎli?-khà? ráy nǎ.**  
 that because TOP this Mali-river COP be  
 なので、(図を指して) これはマリ川です。
- (63) **pay-mǎgá ná gò mǎli?-khà?.**  
 left-side GEN TOP Mali-river  
 左側の(川)はマリ川。
- (64) **khra-mǎgá ná gò òmay-khà?.**  
 right-side GEN TOP Nmai-river  
 右側の(川)はンマイ川。
- (65) **nday kó? òná màwmù lǎy mi prút wà ?ay.**  
 this LOC ABL tale one one sprout VEN DECL  
 ここから物語がひとつ芽生えました。
- (66) **mòy khra-gǎnù thè? ?í, sǎksè mǎdún lù ?ay khu ráy nǎ.**  
 long.ago cicada-worm COM SFP evidence show get NMLZ like COP be  
 昔、虫の蟬ですね(蟬を用いてですね)、(この出来事が起きた)証拠を示すことができるということです。

<sup>19</sup> 接続助詞 *tím* 「～だが」は、逆接続助詞 *tí?* 「が」と累加副助詞 *mùj* 「～も」の短縮により派生された形式である。

- (67) **yá? gò “ʔnú ʔi, cā ʔi” ɲú ʔay gò khra ráy tí? mùŋ**

now TOP mother SFP child SFP say NMLZ TOP cicada COP but also

**ñsén ñ-búŋ ʔay.**

voice NEG-resemble DECL

今日、「ヌーイー、シャーイー」(「母よ、子よ」)と鳴くのは、蟬であつても鳴き声は同じではありません。(ンマイ川流域に生息する蟬とマリ川流域に生息する蟬とは鳴き声が異なります。)

- (68) **nday gò gənù phé? cəgá ʔay.**

this TOP mother ACC call DECL

これは母を呼んでいます。

- (69) **nday məliʔ-khàʔ-məgá ná gò**

this Mali-river-side GEN TOP

このマリ川の側の(蟬)は。

- (70) **day məjò dày-ní “ʔnú ʔi” ɲa ʔay.**

that because this-day mother SFP say DECL

だから、今日「ヌーイー」(「母よ」)と鳴きます。

- (71) **wó-rà məgá gəcà phé? cəgá ʔay.**

over.there-place side child ACC call DECL

あちら側(の蟬)は子を呼びます。

- (72) **“cā ʔi” ɲú ʔay dày-ní dù khra cəgá ʔay.**

child SFP say NMLZ this-day arrive till call DECL

「シャーイー」(「子よ」)と言うのは、今日に至るまで(そう)呼んでいます。

- (73) **ʔè, day khu.**

INTJ that like

はい、そのように。

- (74) **yá? day ləkhôn gò day khu ná ʔánthe jìŋphò? ná màwmù y thà? gədùn-gədùn**

now that two TOP that like GEN 1pl Jinghpaw GEN tale LOC be.short-RED

**mì ráy tím grày ʔəkhàk ʔay màwmù y ləŋây mì rê.**

one COP but very be.important NMLZ tale one one COP

今、その二人はそのような私たちジンポー一人の物語の中で短いものですが、とても重要な物語のひとつです。

## 記号・略号

-	morpheme boundary	DIST	distal
1	first person	GEN	genitive
2	second person	HORT	hortative
3	third person	IMP	imperative
du	dual	INTJ	interjection
pl	plural	IRR	irrealis
sg	singular	LOC	locative
ABL	ablative	NEG	negative
ACC	accusative	NMLZ	nominalizer
ADV	adverbializer	Q	question
ALL	allative	QUOT	quotative complementizer
COM	comitative	RED	reduplicant
COMPL	completive	SEQ	sequential
COP	copula	SFP	sentence-final particle
COUP	couplet	TOP	topic
CSM	change-of-state marker	VEN	venitive
DECL	declarative		

## 参考文献

- 倉部慶太. (2010) 「ジンポー語における動詞連続の文法化」『地球研言語記述論集 2』 15–37.
- 倉部慶太. (2011) 「ジンポー語における対句表現」『地球研言語記述論集 3』 37–57.
- 倉部慶太. (2012) 「ジンポー語の格標示」『京都大学言語学研究』 31: 133–180.
- Kurabe, Keita. (2016) A grammar of Jinghpaw. Ph.D. dissertation, Kyoto University. pp.668.
- Kurabe, Keita. (2017) Jinghpaw. In Graham Thurgood and Randy J. LaPolla (eds.), *The Sino-Tibetan Languages* (Second edition). 993–1010. London and New York: Routledge.
- 角田太作. (2011) 「人魚構文：日本語学から一般言語学への貢献」『国立国語研究所論集』 1: 53–75.

受理日 2017 年 4 月 3 日